

平成25年度 第2回

四国地方整備局新技術活用評価委員会の開催 ～有用な技術が育成し、社会に還元されるために～

四国地方整備局は、有用な民間等の新技術の公共工事等への活用促進を図る事を目的として、新技術に係る情報の収集、技術公募、事前審査及び事後評価等を実施するための『四国地方整備局新技術活用評価委員会』を以下の要領で開催いたします。

記

「平成25年度 第2回 四国地方整備局新技術活用評価委員会」

日時：平成25年12月10日（火）10：00～12：00

場所：高松サンポート合同庁舎 低層棟 2階 アイホール

【審議事項 概要】

1. 新技術の事後評価(4件)

工事の中で使った結果を基に、技術を評価します。

今後の工事で採用する時等に、この結果を参考にしていきます。

2. 平成26年度四国テーマ設定技術応募テーマについて

平成26年度に技術募集する応募テーマについて確認を行います。

※「四国テーマ設定技術」とは、四国における具体的なニーズにマッチした、四国のこれからの発展に役立つ技術テーマ（災害対応技術、構造物保全技術、維持管理技術）を設定し、平成18年度より取り組んでいます。

<取材でのお願い>

新技術の審議内容については、各技術の秘密・特許情報等にかかる事柄があることから、取材は委員会の頭撮りのみとさせていただきます。なお、委員会終了後事務局にて取材に応じます。

平成25年12月6日

<問い合わせ先>



国土交通省 四国地方整備局

企画部 施工企画課長 いずみかわ のぶひろ 泉川 暢宏 (087-851-8061 内線 3451)

○ 施工企画課長補佐 いちばら みちひろ 市原 道弘 (087-851-8061 内線 3452)

※○：主たる問い合わせ先

～審議技術の概要～

< 事後評価 >

『ミレニューム』(KK-10081-A)』

手すり先行専用システム足場で、下の層から1層上の足場の両側に手すりを先行して設置する事を可能にした技術である。

『スリム側溝(都市環境型側溝)』(KT-02001-A)』

表面に甲羅模様を配したスリット付き管渠型側溝であり、側溝を歩車道として有効利用するバリアフリー対応の都市環境型側溝である。

『SJボックス』(SK-030003-A)』

個々の継手に可とう性を持たせたプレキャストボックスカルバートにより、管路に要求される耐震性能の確保を可能とした技術である。

『アプロンⅡ』(SK-060015-A)』

仮設工を必要とせず、基礎コンクリートと本製品をアンカーボルトで一体化させる片持式のプレキャスト製張出歩道である。

※ 技術の詳細は、登録が完了しているものについては、以下のURLにて確認できます。

<http://www.netis.mlit.go.jp/EvalNetis/NewIndex.asp>

平成25年度 第2回四国地方整備局新技術活用評価委員会

議 事 次 第

日時：平成25年12月10日(火) 10:00～12:00

場所：高松サンポート合同庁舎低層棟2階 7ホール

I. 開会

II. 挨拶 (委員長)

III. 議事

1. 平成25年度第1回新技術活用評価委員会の報告等

1-1 平成25年度第1回新技術活用評価委員会の報告等

2. 新技術の事後評価

2-1 四国地方整備局で事後評価を行う技術について

2-2 ミレニウム

2-3 スリム側溝

2-4 S Jボックス

2-5 アプロンⅡ

3. 平成26年度四国テーマ設定技術募集について

4. 推奨技術・準推奨技術の選定

5. その他

IV. 閉会

「四国地方整備局新技術活用評価委員会」 設置趣旨書

1. 設置趣旨

公共工事に関連した民間等による技術の開発は、公共工事の品質の確保や安全で安心な暮らしの実現、良好な環境づくり、快適で生活コストの安い暮らしの実現等に向けて、民間等の分野における技術開発が促進され、優れた技術が産み出され、さらには、改良が加えられ、社会に還元されていく仕組みを確立することが重要です。

四国地方整備局では、これまでにNETIS（New Technology Information System, 新技術情報提供システム）を用いて新技術の活用を推進してきたところでありますが、民間の技術開発の促進およびすぐれた新技術の活用による公共工事の品質の確保、コスト縮減等を強化・促進するために、学・産・官の有識者により構成される「四国地方整備局新技術活用評価委員会」を平成17年6月29日に設置しました。

当委員会においては、公共工事等への有効な新技術の活用促進を図る事を目的として、新技術に係る情報の収集、技術公募、事前審査、現場での試行及び事後評価を実施します。

委員会の運営を通じ、四国地方における地場産業、地域特性を生かした地域貢献ならびに防災・減災が図れることが期待できるとともに、全国の公共工事等において新技術の活用促進を図る事により、民間における技術開発が促進され、良い技術が育成し、社会に還元されるスパイラルが確立され、公共工事のさらなる品質の確保、コスト縮減等が期待できます。

2. 新技術活用評価委員会 委員名簿 (敬称略：順不同)

(大学 5名)

松島 学	香川大学工学部 教授 (構造工学、コンクリート工学、信頼性工学、景観工学)
吉田 秀典	香川大学工学部 教授 (構造工学、地震工学、維持管理工学)
伊福 誠	愛媛大学大学院 理工学研究科 教授 (海岸工学、自然災害科学)
高木 方隆	高知工科大学システム工学群 教授 (国土情報処理工学)
渡邊 健	徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部 准教授 (コンクリート工学)

(産業界 3名)

(社) 日本建設業連合会四国支部	技術委員会	委員長
(社) 建設コンサルタンツ協会四国支部	企画委員会	委員長
(社) 日本埋立浚渫協会四国支部	技術委員会	委員長

(研究機関 2名)

(独) 土木研究所	材料資源研究グループ長
(独) 港湾空港技術研究所	特別研究官

(整備局 8名)

四国地方整備局	企画部長	外7名
---------	------	-----